



西安交通大学との国際交流セミナーを実施

国際大学交流セミナーは、独立行政法人日本学生支援機構と我が国の大学が共同で実施する事業です。本学は平成19年度はじめて応募して採択され、学術交流協定を結んでいる西安交通大学（中国）の学生10名と教員2名を広島キャンパスに招聘して、平成19年10月11日から10日間のセミナーを実施しました。

セミナーのテーマは「海の道による日中文化の融合—瀬戸内海の歴史と文化—」です。古来、中国をはじめとする東アジアの文化は、「海の道」を通して日本列島に入ってきました。セミナーでは、列島内の「海の道」である瀬戸内海の中央部に位置する広島県で、古くから港町として栄えてきた宮島、鞆、尾道を中心とする地域の歴史と文化、とりわけ日本と中国との文化の融合について、講義と現地学習によって学びました。また、日本文化体験・ホームステイ等を通じて本学の学生や県民との交流を深めました。

このセミナーを契機として、海外の大学との国際交流を一層促進したいと考えています。



開 講 式

日本学生支援機構の蓑島則和理事を迎えて開講式を行いました。セミナーに参加した学生のうち2名は、来年度交換留学生として来日する予定です。

能 舞 台

福山市の喜多流大島能楽堂で、日本の伝統芸能である能を体験しました。全員が足袋を履いて能舞台上がり、扇を手に持って能の所作について指導を受けました。



国際交流セミナーの実施報告は、本学ホームページにも掲載していますのでご覧ください

http://www.pu-hiroshima.ac.jp/news/20071127_631.html

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

包括協定と連携事業

青少年育成広島県民会議との包括協定と連携事業

保健福祉学部人間福祉学科 講師 細羽 竜也

すでに報道や本学ホームページなどでご存知のことと思いますが、本学は青少年育成広島県民会議と包括的連携・協力に関する協定を、10月16日に締結しました。

連携の内容としては、(1) 青少年育成指導者等の人材育成に関すること、(2) 青少年育成の諸課題に対する調査・研究に関すること、(3) 学生のボランティア活動や青少年育成県民運動への参加促進に関すること、の3つが中心となります。

今後、本学教員にも様々な形で青少年育成広島県民会議との連携事業への協力をお願いすることになると存じます。「地域に根ざした大学」の一員として、快く協力いただければ幸いです。

さて、今年度は早速、10月27・28日に広島キャンパスにおいて、包括協定記念講座および青少年育成総合講座を開催し、本学からは、赤岡功学長をはじめ、田丸政男保健福祉学部長、市島民子教授、山本映子教授、清水ミシェル・アイズマン教授が講座の講師として参加しました。地域の青少年の育成運動に関わる方々には大変好評を得て、3月にもう一度開催する予定です。

また、課題別講座として、発達障害の児童を対象にした育成講座を、林優子教授、土田玲子教授、細川淳嗣助手を中心に尾道市因島や三次市で実施しています。また、西村いづみ助教を中心に、広島県での青少年の育成事業を雑誌風にまとめていく活動も実施しており、地域の育成活動と結びつきながら、広島県の青少年の健全な育成に寄与できる大学として、衆目を集めつつあります。地域社会での本学の役割の重要性が増し、新たな大学像につながっていくことを実感するような事業となっていくことを期待しています。



新たな取り組み

社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム

文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託事業」に本学が提案した「ケアマネジャー（介護支援専門員）を対象とした再就職支援及びスキルアップ講座」が選定されました（平成19～21年度）。

再就職支援プログラムは、介護支援業務の一連の流れ、実務方法についての理解を深めるとともに、介護保険給付管理業務を行うた



めに必要不可欠なパソコンの操作方法の習得を図るものです。今年度の講座は終了し、40名の方に修了証を発行しました。修了者から、「今回の受講で、今まで敬遠していたパソコン操作を仕事の中に取り入れることができ、一歩前進することができました」とのお言葉をいただきました。

実務従事者向けスキルアップ教育プログラムは、医療ニーズの高い利用者に対するケアマネジメント力のスキルアップを目標とし、演習などを取り入れた濃密な内容で、全学科教員登壇の講義内容は「明日からの業務にすぐ役立つ」と好評です。

保健福祉学部現代GPプロジェクトスタート

文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）の助成を受けて、「ヘルスサポーターマインドの発達支援一心・技のバランスのとれた実践的保健福祉キャリア教育の推進」(平成19～21年度)のプロジェクトがスタートしました。本プロジェクトは、専門知識・技能の教育に加えて、学生の「心（マインド）」の発達を体系的に支援するプログラムを展開し、地域のニーズを読み取り、住民とともに考え行動できる質の高い人材の育成を目指すものです。特にコミュニケーション力、倫理的思考・判断力、地域のニーズを把握し解決に向けて行動する力の3つの力の向上を重視します。8月の選定決定後、早速、プログラム運営委員会（吉川ひろみ委員長）が発足し、各種セミナー等を開催しています。詳細は大学HPで公開していきます。本学部の教育・研究の成果を地域の皆様に共有していただく機会にもなると考えていますので、ご協力のほどお願い致します。

放射線治療紹介

平成10年6月に、広島県立保健福祉大学附属診療所で放射線治療を開始しました。平成19年11月まで、342人のがん治療をお手伝いしました。乳がんや前立腺がんの罹患数が、近年増加しています。これらは、早期に発見し治療を開始するとほとんどの場合、治癒が可能です。

がんは、手遅れになるのが怖いので、早期に対応すればがん自体は決して恐れる相手ではありません。治療のために長期の入院や遠方の施設に通うのではなく、徒歩や自転車で通える施設が近くにあれば、がんで大切な家族を失うことがなくなります。これが、がん治療の均てん化*です。

地域の皆様に、われわれの活動を理解していただき、気軽に利用していただければ幸いです。

*全国どこでもがんの標準的な専門治療を受けられるよう、医療技術等の格差の是正を図ること。



地域連携

当センターでは、三原市主催の保健・福祉まつり（10月27日・28日）、浮城まつり（11月11日）でブースをお借りし、重点研究のパネル展示等により地域連携事業の紹介を行いました。各日とも1日で約600人の来客があり、盛況でした。保健・福祉まつりでは、健康づくりに関する相談など、大学に対する様々な要望が寄せられました。浮城まつりで行った「3D三原城」の研究発表は、三原城をコンピュータ上に立体的に復元し、映像とナレーションで紹介するもので、市民の方々の関心が大変高く、好評でした。



研究紹介

コミュニケーション脳機能の研究

保健福祉学部
コミュニケーション障害学科 教授 今泉 敏

人と人がコミュニケーションするときの脳の働きを研究しています。

例えば、「お利口さんね」という表現には、本心から褒めている場合もあれば、本当は怒っている場合もあり得ます。このような微妙な、しかし重要なニュアンスを理解しようとするとき、脳は言葉を担当する言語野ばかりでなく、自己や他者を理解しようとするときに働く機構も重要な役割を果たすことがわかりました。

また、このような能力は小学生の始め頃までに女児の方が男児より速く成熟する能力で、自閉や聴覚障害などによって発達が遅れる場合もあることもわかりました。人の声や表情から真意を推察する仕組みが明らかになれば、介護ロボットの開発などにも役立つと考えています。研究室では、さらに音の聞こえない人々に情報を伝える方法の研究など、コミュニケーションのユニバーサルデザイン化について大学院生や卒論ゼミ諸君とともに精力的な研究を進めています。



今後の講座のご案内

●第5回 脳をみるシンポジウム in 三原

テーマ『認知症を認知しよう！』

日時 平成20年3月1日(土) 13:30~16:30

場所 三原リージョンプラザ (三原市円一町二丁目1-1)

参加費 500円 (学生及び65歳以上の方は無料)

【講演内容】

- 1 中高年女性と認知症 — 検診結果から —
県立広島大学 青井 聡美
- 2 認知症への生活援助と作業療法
全仁会介護老人保健施設倉敷老健 岩部 絵里
- 3 認知症の病態と遺伝子との関係
広島大学原爆放射線医学研究所 丸山 博文
- 4 認知症の診療の実際 — 診断から治療 —
徳山医師会病院 森松 光紀

【申込方法】

「脳をみるシンポ参加希望」とした上で、氏名・連絡先・所属（学校名や勤務先等）を 電話(0848) 60-1120(代) 又は、E-mail(mrenkei@puhiroshima.ac.jp) までご連絡ください。

広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

産学連携

ひろしまビジネスマッチングフェアに出展

10月11日、ひろしまビジネスマッチングフェアが県立広島産業会館で開催されました。本学は8件の研究シーズをパネル出展しました。出展業者、来場者いずれも昨年より多く、本学ブースでは14件の相談に対応しました。



出展者		タイトル
所属学部	氏名	
人間文化	栢下 淳	高齢者の機能状態・栄養状態を考慮した食品開発
経営情報	森田 勝弘	高度情報化企画人材育成講座「EAに基づく統合的情報システム管理スキル研修」
生命環境	吉野 智之	食のトータルコーディネートを指して
生命環境	江頭 直義	たんぱく質のゼプトモル迅速検出法の開発
生命環境	三苦 好治	ダイオキシン迅速無害化装置
保健福祉	大塚 彰	ユーザーのQOLを目指す福祉用具開発・研究～代表例の紹介～
保健福祉	田中 聡	バーチャルスポーツによるリハビリテーションの実現
保健福祉	塩川 満久	廻り階段用すりのユニバーサルデザイン～三次元動作解析をもとにして～

呉信用金庫においてセミナー開催

連携協力協定に基づく第2回の産学連携セミナーを10月18日に呉信用金庫本店で開催しました。地元商店街の活性化をテーマとした経営学科 栗島浩二講師によるワークショップ形式のセミナーで、受講者は24名でした。



国民生活金融公庫広島支店と連携協力協定を締結

11月22日、国民生活金融公庫広島支店と連携協力協定を締結しました。幅広いネットワークを有する公庫の取引先企業などからの技術相談に関する支援など、組織的な連携・協力を図ることにより、地域社会の発展に貢献していく方針です。



公開講座

文学セミナー「いま、あらためて『源氏物語』をよむ」

源氏物語千年紀を前に、源氏物語に対する理解を深める講座を、西本寮子教授を講師として開講しました。

延べ486名の方が受講され、母親の思い出と結びついたエピソードや、年齢を積み重ねて源氏物語の受けとめ方が変わってきたことなど、受講生の方々の思いが感じられる講座となりました。セミナーを継続してほしいという希望も数多く寄せられました。

10/30	現代語訳のさきがけー与謝野晶子と『源氏物語』ー
11/13	谷崎潤一郎の挑戦ー三つの『源氏物語』訳ー
11/27	『細雪』と『源氏物語』
12/11	世界の『源氏』へー『源氏物語』に魅せられた人々ー

「子どもと楽しむ4つの世界」

親子で参加できる企画として、①ひとり語り、②音楽劇、③音楽リズム、④まとあてゲームを楽しむ講座を開催しました。

①	8/27	伸ちゃんのさんりんしゃ
②	10/20	おばあちゃんのひざまくら
③	12/8	しなやかな心とからだを育む身体運動文化（Ⅰ）
④	12/15	しなやかな心とからだを育む身体運動文化（Ⅱ）

「とても楽しく心温まるひとときを過ごせた」「子どもも大人も一緒に遊ぶことで心を開き、『楽しむこと』を共有できた」などの感想がありました。



「国際貢献のための人材育成講座 2007」

7月から1月にかけて広島県主催で開催された連続講座のうち、本学は次の3講座を担当しました。

日程	テーマ		講師
12/1	持続可能な社会へ～いま、ここで世界を考えるために～	国際援助はなぜ必要か	伊東 和久
12/8		有効な国際援助とは	富田 和広
12/15		国連は問題を解決できるか	原 理 藤井 浩樹

貿易ゲームや模擬国連を通じて国際情勢や国際関係を体感し、学生と社会人が活発な議論を重ねて、国際貢献に必要なコミュニケーション能力を養いました。

研究紹介

運動と血管伸展性

人間文化学部健康科学科 教授 三浦 朗

私達の研究室では、現在、ヒトの「動脈」ならびに「静脈」の血管伸展性（血管のやわらかさ）に与える持久性運動トレーニング効果について研究しています。

血管の伸展性は加齢と共に低下します。特に動脈血管伸展性の低下（動脈硬化）は心臓病や脳血管疾患のリスクファクターとなることはすでによく知られています。運動トレーニングは大動脈血管の伸展性の加齢低下を軽減することが明らかにされつつあり、運動の有する恩恵的效果のひとつとして注目されています。私達の研究室では、これまで注目されてきた中心部の大動脈血管と、実際に運動を行う末梢部位の動脈の伸展性に対する、持久性運動トレーニングの効果を併せて検討しています。結果として、短期間の運動習慣でも、運動をしている部位の動脈伸展性が改善されることがわかってきました。

「静脈」はどうか？ よくトレーニングされた長距離ランナーは「立ちくらみ」を起こしやすいことが知られ、その原因として脚部の静脈血管の伸展性が高いことが原因のひとつと考えられています。つま

り脚の静脈血管が柔らかいと、そこが血液の貯留場所となって、心臓に戻る血液量が減り、血圧がさがってしまうというわけです。興味深いことに、動脈側では恩恵的效果をもたらす運動が、静脈側では負の効果となる可能性があるわけです。そこで私達は、当研究室で開発した超音波Bモード法を用いた静脈伸展性評価手法（写真参照）を適用し、持久性運動トレーニングが静脈の血管伸展性に与える効果について検討しています。現在のところ、脚の静脈伸展性は、起立性低血圧の直接の規定要因ではないことがわかってきました。

いずれにせよ、ウォーキングなどの持久性運動トレーニングをすると血管はやわらかくなるようです。内臓脂肪の燃焼、持久性能力（スタミナ）の改善に加えて、運動の恩恵的效果として広く知っていただきたいと思っています。



超音波Bモードを用いた静脈伸展性の測定風景

XBRLによる財務情報の電子化とデータベース化

経営情報学部経営情報学科 准教授 岡村 雅仁

XBRL (eXtensible Business Reporting Language) は、電子化された財務情報を作成し、その財務情報の再利用が容易にできるように標準化されたXML (eXtensible Markup Language) ベースの言語です。財務情報を統一的な電子フォーマットとして記述できるXBRLにより、ソフトウェアやプラットフォームに依存せずに、電子的な財務情報の作成、流通、再利用が可能になります。財務諸表を作成する企業、監査人、アナリスト、投資家、ソフトウェアベンダー、情報ベンダー、監督機関など財務情報の作成から利用にかかわる情報サプライチェーンの関係者にとって、システム開発のコスト削減や利便性の向上等が期待できます。

財務諸表等規則に定める別記事業を営む場合や米

国会計基準に準拠している場合、財務諸表における科目表示は、一般事業会社ものと異なっています。社数や規模で見ると、別記事業を営む企業は、わが国において重要なセクターを構成しています。また、貸借対照表の資本の部が廃止され純資産の部として表示されるようになったように、規則改正等により開示項目の見直しが行われます。このとき、単一の時系列データとして規則改正前後の値をそのまま接続できない科目がでてきます。現在、以上のような特殊性を考慮して、企業間比較や時系列分析が容易にできるように、(1) XBRLを利用した電子開示システム、(2) 別記事業を営む企業を含めて、財務情報を共通の項目でデータベース化することについて研究を進めています。

庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

世羅町との包括協定締結

12月3日、世羅町と包括協定を締結しました。調印式は、本学から赤岡功学長、堂本時夫副学長など、世羅町側から山口寛昭町長、金尾則満副町長など、それぞれ十数名の出席のもと、世羅町の庁舎で行われました。

本学と世羅町とのかかわりは深く、平成15年に本学の前身である3大学が主催した県立三大学連携シンポジウム（「健康と福祉の町おこし」）が世羅町で開催され、また平成17～18年度にかけては世羅町の行政改革推進プラン及び長期総合計画の策定に、本学の教員がアドバイザーとして参画しました。

このような経過をふまえて、本学と世羅町が包括協定を結び意識的に交流を行えば、大学としては一層社会に貢献でき、世羅町としては質の高い行政サービスの提供が可能となるとの認識のもとに、包括協定を締結することになりました。

包括協定による連携協力事業として、次のものを計画しています。

- ① 健康の増進
- ② 産業の振興
- ③ 教育活動の推進
- ④ 地域環境の保全
- ⑤ 住民自治活動への支援
- ⑥ 学術・専門的交流の推進

包括協定の締結後、平成19年度では「農畜産廃棄物の処理等地域の環境保全対策」に関する予備調査を実施し、平成20年度には引き続いて本調査、「高齢者の健康づくり」、「農業の6次産業化の推進」等について連携協力事業を行う予定です。



学術講演会

パンダの死体はよみがえる

京都大学・霊長類研究所の遠藤秀紀先生による学術講演会が11月30日に開催されました。モノを掴むためには、人間の親指の様に他の指と対向する指が必要です。なぜパンダが器用に竹を操れるのでしょうか？ パンダの手首には大きな骨（種子骨）の膨らみがあるので、これが「偽の親指」として働き、パンダは6本指だから器用に竹を握ることが出来るというのがこれまで70年来の定説でした。遠藤先生はフェイフェイの解剖をした時、この定説に大きな疑問を持たれたそうです。

解剖学と聞くと誰もがメスやハサミを用いた古典的な作業を連想されると思いますが、何と遠藤先生はコンピュータ断層撮影法（computerized tomography scanning：CTスキャン）という最先端のメスを使ってホアンホアンの手を解剖されたのです。まず、死んだホアンホアンの掌に竹と同じ位のパイプを握らせました。パイプを握らせたホアンホアンの手をCTスキャンにかけて2ミリおきに断層撮影します。次に、百数十枚の断層写真をコンピュータ上で三次元構築させ、ホアンホアンの手の骨の立体像を描かせます。そして、モニター上で回転させたり、ホアンホアンの指をグー、パーさせたり、まさにパンダの死体はよみがえったのです!! こうしてホアンホアンの指を握らせると、6本目の指だけでは握った竹が固定されずに抜け落ちてしまい、実は小指側にある骨（副手根骨）が竹を握る時に重要な役割を果たしていることを遠藤先生が初めて証明されました。これがパンダの第7本目の指の発見となった訳です。

今回遠藤先生にご講演頂いて、私が一番印象に残った言葉は『五感を用いて科学する』でした。目で見て、手で触れて、仲間と話し合って考える、自分で黙って考える、これが科学する者にとって一番基本で一番大切なことなのだ改めて痛感致しました。

（生命科学科 矢間 太）



庄原市民公開講座

庄原市の新たな共生を求めてー身近な他者理解のためにー

庄原市教育委員会との共催による市民公開講座を、10月26日から11月19日にわたって5回シリーズで実施しました。講師とテーマは別表のとおりです。家族の間でも時に考えていることが理解できないことがあり、他者を理解することは意外と難しいことです。様々な人々が一緒に住み、交流する庄原における新たな共生を可能とする試みや考え方を学ぶものとなりました。今回は新たな試みとして、本学学生にも話をしてもらいました。毎回40名を超える参加がありました。

月日	テ ー マ	講 師
10/26	カルチャーショックを考える ～異文化理解入門～	上水流 久彦
11/1	身近な人を理解するー障害を持って地域で暮らすということ	古山 千佳子
11/7	学生から見た庄原の魅力と課題	県立広島大学学生
11/14	都市と庄原の結び方～交流をめぐって～	天意の里 山根 朝美
11/19	異文化コミュニケーションのすすめ：画一的「外国人」像の克服へ	ロナルド・ジェフリー・スチュワート

大学公開講座

「現代社会における『子ども』問題とその理解」

子どもを取り囲む環境はここ数十年で大きく変容し、子どもの問題は重要な関心事となっています。そこで主に県北の小中学校の教員や栄養士を対象に12月1日に公開講座「現代社会における『子ども』問題とその理解」を安芸高田市の甲田若者定住センターミュージズで開催しました。

幼児虐待の問題、子どもの生活リズム、現在の学校教育の問題点、成長過程における心のありようについて講義があり、各講義の終わりには和やかな雰囲気の中質疑応答が行われました。

なお、安芸高田市、安芸高田市教育委員会、庄原市教育委員会、三次市教育委員会から後援をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

テ ー マ	講 師
子どもの人権を考える	若尾 典子
学力、体力さらに精神力を高める食と生活リズムの役割	加藤 秀夫
子どもの『こころ』と『からだ』の現状と体育・スポーツ教育の課題	中瀬古 哲
子どもの発達のみちすじ	猪木 省三

研究紹介

キレート剤を用いたアオコ抑制法の開発

生命環境学部環境科学科 助教 内藤 佳奈子

広島県のため池数は兵庫県に次いで全国二位（2万を超える）であり、農業用水としての利用など依存率は高くなっています。ところが、春から夏にかけて池水にアオコ（微細藻類が大量発生して水面が緑色に濁る）が発生し、農産物への被害や景観悪化などの問題が生じています。このため、水質浄化装置やアオコ抑制法の開発が待望されています。そこで、我々の研究グループは多量栄養素（NやP）の利用をコントロールする重金属に着目し、低コストのキレート剤を用いたマスキングによるアオコ原因藍藻類の増殖抑制効果について検討しています。

2007年5月から本学庄原キャンパス付近のため池9ヶ所（国営備北丘陵公園内熊野池、上野公園内上野池、はげら池、太刀洗池、小堤池、大池、新池、五十田池、大仙池）の水質調査を行ったところ、熊野池において *Anabaena* 属藍藻によるアオコの発生を確認しました。そこで、熊野池の表層水を採取して、多種の金属イオンを捕集するキレート剤を多段階の濃度に設定し、室内培養実験を行った結果、キレート剤濃度 0.5 ppm 以上の添加によって、顕著に藍藻類の増殖が抑制されることを確認できました。現在、企業からの共同研究依頼を受け、水域環境におけるキレート剤を用いたアオコ抑制法の開発を進展させています。



庄原キャンパス内はげら池
三好康彦庄原地域連携センター長（左）と筆者（右）

平成19年度 地域戦略協働プロジェクト事業

本学は現在、広島県内の5自治体と包括協定を結んでいます。この包括協定による連携・協力をより確かなものとするため、締結先の自治体（19年12月締結の世羅町を除く）から提案のあった地域課題に対して、自治体と大学が協働して取り組む地域戦略協働プロジェクト事業を始めました。

事業のテーマと取組状況は次のとおりです（協定締結順）。

庄原市 豊富な森林資源の効率的な収集システム及び有効活用に関する調査研究

庄原市は豊富な森林資源のもとに、循環型社会の構築を目指し、「庄原森のバイオマス産業団地構想」に取り組んでいます。構想実現には、森林資源の安定供給が不可欠となります。市内に賦存する森林資源の供給可能量や効率的な収集システムを把握し、里山循環モデルを組み立てるため、市・県森林環境づくり支援センター、素材生産業者などの共同プロジェクトによって調査を開始しています。

三原市 三原市における生活交通（地域公共交通）再編協働プロジェクト事業

地域公共交通をテーマに2年計画で、三原市全体の交通体系の再編に向けた現状把握と検討を進めています。8月の準備会議を経て、10月に第1回プロジェクト会議を開催しました。8月末には久井町、大和町等の現地調査を行い、11月には三原キャンパスの学生を調査員として三原市内の路線バス（本郷町内、八幡、御調の各線）で乗り込み調査を実施しました。現在、実効性のある政策提言を行うためにデータ分析を急いでいます。

廿日市市 廿日市市におけるスポーツ振興のニーズ調査と計画策定に関する研究

廿日市市においては、平成9年5月に策定した「はつかいちスポーツビジョン21」の計画期間が平成19年度で終了するため、平成19・20年度の2年間で新たな次期10か年計画を策定します。策定にあたっては、スポーツに関する市民のニーズを把握する必要があり、平成19年度は一般市民を対象としたシンポジウムを9月29日に開催し、つづいてアンケート調査（対象5000名）を実施しています。今年度中に集計と分析を行う予定です。



安芸高田市 中山間地域における第三セクターの役割及び評価方法の調査研究

現在、第三セクターはどの自治体においても重要な政策課題となっており、その必要性が検討されています。このプロジェクトでは、安芸高田市の第三セクターを対象にその必要性を数値で表すべく経営状況、利用者の満足度を研究調査しています。これまでに数度の担当者の打合せを行い、第三セクターに関する基礎資料の収集、アンケート調査票の作成を行っています。近々、アンケート調査を実施する予定です。

編集後記

センター報第6号をお届けします。本号には、国際大学交流セミナー、10月から12月にかけて締結した連携協力協定、各キャンパスの公開講座等の情報を掲載しています。また、今年度開始した地域戦略協働プロジェクト事業の取組状況についても紹介しています。

本学が開学して3年、公立大学法人化して1年が、まもなく経過しようとしています。引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます。(A)

編集発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
電話(082)251-9534/E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話(0824)74-1704/E-mail:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター

〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号
電話(0848)60-1200/E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp